

●京都府立植物園

<p>課題・問題点等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・80万人以上の入園者数がありながら、入園者に対する十分なマーケティング分析ができておらず、ニーズに応じた取組が行われているか検証が必要。 ・平成26年度の入園者数は過去15年間で最高となったものの、観覧温室の利用者数は、園の入園者数の1/5程度に止まっている。 ・京都市動物園や京都水族館と比べると、観光面において、土産物販売などの物販面が弱い。
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □府民だけでなく京都観光の名所として、今後もその存在意義が期待できる。 □植物園本来の目的に沿った入園者数を、確実に増加していけるような施策の展開が必要。入園者数の増加に力点を置きすぎたイベント等の実施には慎重であるべき。 □植物園という存在に対し、利用者が何を求めているのか、マーケティング分析が必要。 □広報・マーケティング部門を設置するなど、組織体制の改革が必要。 □園全体にテーマ性、ストーリー性が乏しく、身近な有料公園の位置づけになっているのではないか。 □入園料（200円）が非常に安く、観覧温室を含め、入園料金を見直すなどの新たなマーケティング戦略が求められる。 □京都市との連携で、市バスや地下鉄の一日乗車券の購入者は、入園料を無料とするなどしてはどうか。現行制度（入園料2割引）では、40円の割引にしかならず、中途半端ではないか。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎入園者に係るマーケティング分析を行い、利用者ニーズに応じた取組を行うことで、更なる入園者数の増加を図るとともに、分析結果の北山文化環境ゾーン構想の推進への活用も検討すること。 ◎観覧温室の利用者数増加の取組を進めるとともに、入園料とは別料金となっている観覧温室の利用料を含め、料金体系の見直しを検討すること。 <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者ニーズについて、これまでのアンケート調査の内容・方法を見直し、より詳細な分析を行うことで、一層の入園者数の増加や北山文化環境ゾーン全体の整備に活用する。 ○植物の生態・栽培状況に着目した新たな展示方法等の検討に加え、多様な植物財産の展示観賞と研修・研究機能の強化など、植物園本来の目的に沿った取組を進め、一層の魅力向上に努める。 ○平成25年に導入した年間パスポートの効果を検証するとともに、観覧温室の利用者増加につながる料金体系を検討する。